

会 議 録

会議の名称		守谷市図書館協議会（令和５年度 第１回）		
開催日時		令和５年８月２１日（金） 開会：１０時００分 閉会：１１時５０分		
開催場所		守谷中央図書館 ３Ｆ 集会室１		
事務局（担当課）		教育委員会 中央図書館		
出席者	委 員	長谷川委員長、野口副委員長、藤平委員、堀越委員、井上委員、岡田委員、赤山委員、広永委員 <div style="text-align: right;">（出席：８名）</div>		
	その他			
	事務局	平塚館長、柳葉副館長		
公開・非公開の状況		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	４人
公開不可の場合はその理由				
会 議 次 第		１ 開会 ２ 挨拶 ３ 委嘱状交付（新任委員２名） ４ 自己紹介 ５ 協議内容 （１）令和５年度図書館概要（案）について （２）守谷中央図書館大規模改修工事について （３）その他 ６ 閉会		
確 定 年 月 日		会 議 録 署 名		
令和５年９月２８日		委員長 長 谷 川 登 代		

審 議 経 過

1 開 会

柳葉副館長 8名の委員が出席、守谷市図書館協議会設置条例第6条第2項の規定により会議は成立。傍聴者は4名。

2 挨拶 長谷川委員長

3 委嘱状交付 新委員2名 井上 一宏 氏、岡田 昌樹 氏

4 自己紹介 各委員、事務局

5 協 議

(1) について

長谷川委員長：協議（1）の令和5年度もりやの図書館概要（案）について、事務局から説明をお願いします。

—柳葉副館長から説明—

令和5年度もりやの図書館概要（案）（以下、概要（案）という）に基づき説明。

長谷川委員長：ご意見、ご質問のある方はお願いします。

岡田委員：P29の（13）活動状況、ブックトークの実績について、一部の学校に偏っているようですが、何か理由があるのですか。

柳葉副館長：各学校の単元の要望（依頼）があり実施しています。当然ながら、各学校へのPRを行っていますが、積極的に要望してくる学校と要望してこない学校があります。

岡田委員：学校長が決めているのか、先生同士で決めているのか。それは分からないのですね。

柳葉副館長：あくまでも学校の要望（依頼）があり実施しているので、どのように決めているかは分かりません。

井上委員：P30-31（14）開催事業の中で、参考までに成人向けの事業は何かを教えてくださいませんか。

平塚館長：成人の方の参加を想定した事業については、「ボランティアマッピング見学会」、親子で学ぶと表記してありますが、成人の方が参加できるということでは「親子で学ぶマネーとゼイの講座」、また、「新進作家芥川龍之介の登場と文壇」は、基本、大人の方の参加を想定していました。ただし、市内の中学生の参加があり、その中学生は、自身で小説を書いており、後日、実際に書いた小説を講師の方に見てもらっていたということがございました。

「ADEAC体験コーナー」、「図書館資料から見る守谷の歴史

展」、「リサイクルブックフェア」、「ADEAC体験会」。

「雑誌付録抽選会」は、お子さんも含まれますが、主に、成人の方が対象となっています。「パネルシアター講座」は、読み聞かせボランティアの方や学校司書を対象に行っているため。「図書館見学会」は、成人の方と小学生の両方を対象にしています。また、「ショートショート書き方講座」は、成人の方と青少年の両方を対象にしています。

野口副委員長：今回の概要は、良くまとまっていると思います。しかし、先ほどの質問にもあったように、開催事業の対象について、例えば小学生のみであれば、「㊤」で表記するなど、記号を付けていただくと、どういう方が対象なのかを分かりやすくなるのでは。可能であれば、ご検討ください。

柳葉副館長：検討します。

堀越委員：概要のP1『はじめに』で記載されているように、令和4年度は、コロナ禍以前に近い形に戻っているとのこと。令和5年度においても、すでに3分の1は経過しています。現在まで、どう変化してきたのか、また、利用者等の特徴的な変化があれば教えてください。

平塚館長：今夏において、猛暑のこともあってか、館内の座席が毎日ほぼ埋っています。新聞や雑誌等を閲覧している方の多さから、館内での滞在者が増加していると感じています。

しかしながら、利用者数と貸出数が必ずしも＝（イコール）と結び付けられるとは言えません。

赤山委員：P25のレファレンス・コピーサービスにおいて、令和3年度より4年度のレファレンスやコピー数が増加しています。これは、コロナの自粛が無くなったからなのか。何かPRした結果なのか。理由が何か分かるのでしょうか。

また、P9の（17）育児コンシェルジュ等について、託児サービスの説明がされているが、従事している方はどんな方か。資格を持っているのか等を説明文に加えると良いのでは。

平塚館長：育児コンシェルジュ従事者の資格について、幼稚園教諭又は保育士の資格を持っているものとなっております。したがって、「専門スタッフが…」という表記を「幼稚園教諭又は保育士の資格を持った」というような表現に修正させていただきます。

また、レファレンス・コピーサービスについて、取り立ててPRをした訳ではございません。しかし、3階のレファレンスカウンターに毎日入れ替わりで職員が配置しており、私自身もレファレンスカウンターにいる機会が多く、実際に市内の方が、複写をしていることが多分にあります。また、よく利用している数名の方からも、「守

谷の図書館は資料が充実している」等もよく聞いております。

柳葉副館長：レファレンス・コピーサービス利用数が前年度より増加していることについて、P20来館数の備考欄に記載のとおり、令和3年8月6日～9月26日まで休館しており、令和3年度は、利用者数が減少しております。

このことから、令和3年度より令和4年度レファレンス等の利用増になっている理由の一つと考えます。

藤平委員：P31開催事業の「老いも若きも読書会主催の読書de交流（読書会）」とは、どんな内容で何人くらい参加したのでしょうか。

平塚館長：老いも若きも読書会は、会員の方が現在5名おり、会の中で読みたい本を持ちより、読書後、感想を言い合う等を行っております。

なお、読書会の図書は、図書館資料を活用いただいております。

読書de交流（読書会）では、事前に「積木くずし」の図書を題材にし、事前に一般の方を募集し、参加者が感想を持ちより、公開読書会を行う予定でした。

しかし、残念ながら事前に応募した一般参加者がどなたもいらっしゃいませんでしたので、当日の読書会は、会の皆さん方の読書会を公開する形で実施しました。

長谷川委員長：「本の帯コンテスト」が中学生対象となっていますが、小学生は、参加できないのでしょうか。

平塚館長：令和4年度は、守谷市の「本の帯コンテスト」は中学生のみを対象に実施しました。小学生から中学生に進級すると、全国的に読書率が低下する傾向があり、守谷市においても同様な傾向があります。守谷市は、令和4年度から5年度においては、中学生の貸出率が増加しましたが、まだまだ小学生と比較すると、貸出率は低くなってしまう。このような理由から、中学生に少しでも本に興味を持っていただくため、中学生の本の帯コンテストを継続しています。

長谷川委員長：小学生から実施した方が良いのではないのでしょうか。

平塚館長：中学生を対象にしている理由は、「本の帯をつくる」という中学校の授業「単元」がありますので、このような理由から、まずは、中学生を対象に継続して実施しております。

しかし、対象を小学生まで拡大することについては、検討させていただきます。

長谷川委員長：私の周りの小学生（高学年）の子どもたち数名から作成したものを頂いた。それを見ると、小学生から実施することは、とても意味のあることと思います。ぜひ、検討していただきたい。

野口副委員長：読書量が減っているのは、高校生にも言えることです。読書量を増やしたいと考えるのであれば、高校生対象で何かに行うと、また違

った点で見えてくるのではないのでしょうか。

高校の学校経営のことですから、なかなかお願いしにくいこととは思いますが…。

平塚館長：その点について、当館では、これまで高校生に対してのサービスがなかなか手を付けられなかったところでしたが、令和5年度は、県立守谷高校に出向き、「協働で実施できることがないか」等の働きかけを行ったところです。その際、守谷中央図書館主催の高校生の参加を想定した、産総研の方を講師に迎えた『〇〇を潰せ』や市内の方が子ども時代に戦争体験の話を語るイベントに、参加を促したのですが、残念ながらどちらのイベントも高校生の参加はごさいませんでした。市外の高校にもポスターをメールで送付する等、これからは、出来るところから、声掛けを行っていきたいと思っています。

堀越委員：令和4年度は1日平均755人の方が訪れており、また、35の事業を実施する等、大変人気の図書館です。しかし、年々業務が膨れていき、このままいくと、職員の方々では、この先、業務をこなす切れなくなってしまうのではないかと心配です。

今後は、あれもこれも行うのではなく、何かを実施するのであれば、何か業務をスリム化しないと、職員の皆さんが苦しい状況になってしまうので、お気を付けいただきたい。

赤山委員：質問ではなく、要望です。先ほど、郷土資料の問合せが多いとの話がありました。小・中学校や高校においても、郷土のことを調べる単位があると思います。また、団体貸出等でも資料の要望が多いことと思います。できるだけ、郷土資料の収集に力を入れていただきたい。また、児童たちがどのくらい郷土資料を貸出されているかが分かれば、良いと思います。

長谷川委員長：昔話がありますが、地域の歴史に触れている資料が少ないですね。子ども達が地域に興味を持つことは、良いことです「もりやかると」を活用するのも良いのではないのでしょうか。

平塚館長：ADEAC（デジタルアーカイブ）に、掲載しています。また、音声も聞くことが出来ますので、ぜひ、ご覧ください。

※令和5年度もりやの図書館概要（案）の指摘箇所は赤字で修正済

（２）守谷中央図書館大規模改修工事について

長谷川委員長：協議（２）の守谷中央図書館大規模改修工事について、事務局から説明をお願いします。

—柳葉副館長から工事概要について、資料を基に説明—

— 平塚館長から工事補足について、資料を基に説明 —

野口副委員長：ICタグ導入については、これから先の事を考えると、改修のタイミングに導入すべきだと私は思います。

赤山委員：ICタグについて、私も導入に賛成です。ただし、新たなシステムを導入することについては、このシステム（ICタグ含む）がどのくらいもつのか。導入するICタグにもよりますが、装備する段階で資料を傷めてしまうケースもありますので、そのような観点から導入する際は、検討いただきたい。

工事実施中は休館されるということですが、準備期間も含めて、現在働いている人たちのことも考慮していただきたいと思います。

平塚館長：今後、ICタグを導入することになった際の導入費用について、国のデジタル田園都市国家構想交付金を活用した自治体の情報も得ており、守谷市も導入する際は、交付金活用を考えており、そのための調査を現在進めています。

長谷川委員長：これからの図書館は、システムの利便性は必要不可欠なのでしょう。

平塚館長：そうです。現在、ほとんどのスーパー等でもレジの無人化が進んでいます。図書館においても、新たなシステム（自動貸出機等）を導入することで、貸出等がかかっていた人手を少しでも削減し、他のサービスに活用できるのではないかとということで、導入を目指しています。

野口副委員長：石川県立図書館に視察に行かれたとのこと。私も、この図書館に行ったことがあります。ここは、声出しが自由な図書館ということになっています。昔の図書館では、図書館内では声を出してはいけない。静かにしないといけない。となっていました。

今は、静かに過ごせる空間と声を出せる空間を棲み分けされていることが必要だと言えます。この先、改修後20～30年以上利用する図書館であれば、改修時には、この「音環境」をどう考えるかが重要なポイントとなってきますね。

平塚館長：令和5年7月にオープンした多摩市立図書館に視察に行ってきました。2階フロアは、話をしても自由な場所があり、とても賑やかでした。しかし、1階には、防音設備が整った静寂読書室があり、しっかりと棲み分けがされていました。

当図書館の改修時には、このことについて、検討すべきことだと感じております。

野口副委員長：子どもたちが声を出して読める環境をつくる。一方で、静かに読書等で過ごしたい方のニーズへの対応を検討すること、改修を行う絶好のタイミングかと思います。

井上委員：和室コーナーについて、以前は、どんな利用の仕方をしていたのですか。

平塚館長：建設当初は、まだ正座などで読書をする習慣もあったこともあり、座布団を敷き読む利用者もいらっしゃいました。しかし、ここ数年、和室コーナーの利用が減ってきたこと。さらに、新型コロナウイルスの感染拡大をきっかけに、展示や特設コーナーとして利用しているところです。

長谷川委員長：これから改修工事の範囲等を検討していくということですね。

平塚館長：おっしゃるとおりです。

(3) その他

令和5年度視察研修について

【決定事項】

- ・11/17（金）に埼玉県飯能市立中央図書館に視察研修に伺う予定で進める。

5 閉 会

柳葉副館長：それでは、以上をもちまして本日の図書館協議会を閉会いたします。ご協力ありがとうございました。